

2021 年度の事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

認定特定非営利活動法人まなびと

◇ はじめに

令和3年度は、まなびととして大きな変化が三つありました。

一つは、新拠点への移転。これに伴い、事業活動を神戸市中央区北野エリアに集約させました。もう一つは、職員の雇用。これまで事務局長として中山が各事業を担当する形で運営してきましたが、各事業担当者を置いて担当者が事業をまわす形に変わりました。

最後の一つは、団体としてのメッセージの見直し。まなびとが真に届けたいものは何か、目指すべき社会とは何かを考えたとき、「一人ひとりが自分のやりたいことにチャレンジできている社会」を目指して、「一人ひとりが自分のやりたいことを見つけられるまでの“待ち時間”を届ける」というまなびとの存在理由が見えてきました。

コロナの影響もあり、また新規事業、新拠点での活動など慣れないことばかりの一年でしたが、多くの方の後押しがあって2021年度も、まなびととして良い待ち時間を過ごせたのではないかと思います。

◇ 事業の成果

(1) 青少年の居場所づくり・まなびの場づくり事業

◆ 放課後学びスペースアシスト事業

【概要】

学校のカリキュラムに沿った勉強が難しい子どもたちが、自分自身の居場所を手に入れながら自分のペースで学びを積み重ねることができる場作り、人との関わりを届ける活動。

2021年度は昨年度まで活動していた学園都市校、甲子園校の事業を終え、現在大倉山にある児童養護施設「神戸真生塾」との連携の下で教室運営を行っている。

【活動頻度、規模】

2021年度は小学生3名、中学生2名に対して活動を行った。

活動は週1回1時間、月3回、スタッフと子どもの1対1の形式で行った。

【成果】

それぞれの子どもたちとの信頼関係は築けてきていると感じる。

毎週教室には来ており、自分のやりたいことややりたくないこと、その日の状態などをそれぞれの子なりに言葉にして伝えてくれている。

学校の勉強をやりたいと思う子もいれば、やりたくないと思う子もいる中で、それぞれの子どもに合わせた活動時間の過ごし方を見出すのには苦勞をするが、1年間の活動を通じてそれぞれの子がモチベーションの高い状態の時とそうでない時の様子、何か嫌なことがあったときや嬉しいことがあったときの様子などが少しずつ分かってきて、コミュニケーションが深まってきている。

◆ 神戸こども探険隊事業

【概要】

神戸市の「こどもの居場所づくり事業」から補助金を受けながらの活動。地域の子どもたちが無料で通える居場所、特に学習に特化した活動に充てられている補助金である。まなびとでは、コロナ禍で地域一般の子どもを対象とした周知活動は一度

止めているが、学童を利用している子どもや、前に利用したことがある子、また HP を見て活動を知った子どもなどが活動に参加している。

宿題の補助なども子どもの希望があれば受けるようにしているが、現在は殆どの子どもが家、もしくは学童で済ませてから活動に参加しているため、探険隊では「みんなで一緒に遊ぶ」をテーマに、人との関わり方を学ぶ場となるようプログラムを提供している。

2021 年度は、新拠点での活動開始、またコロナ禍で止めていた積極的なプログラム提供を再開させたこともあり、スタッフも子どもたちも手探りの中で活動を行った。そんな中で、「体の安全、心の安全を守る」ということを共通の目標として、人の話を聴く、ルールを守る、など団体活動のベースとなっている部分を子どもたちとも確認しながら、スタッフが考えたゲームやワークショップに取り組んだ。

【活動頻度、規模】

探険隊は毎週火曜木曜の 17 時～19 時で行っている。

子どもたちは平均して 10 名程度参加している。

スタッフはメインのスタッフが 2 名とサポートスタッフが数名で運営している。

【成果】

子どもたちの中で、「探険隊」という時間がどういう時間なのか、という共通理解が出来たと感じている。時間が近づくと部屋を片付けたり、スタッフにその日のプログラムを聞いたり、また活動が始まってからスタッフが説明を始めると自然と円になって話を聴いたり、円に入れていない子がいると子ども同士で声を掛け合えるようになった。

◆ 学童保育「北野くん家」事業

【概要】

神戸市の補助金を受け、民間が運営する民設学童という枠で活動をしている事業。

主にこうべ小学校の子ども、特に北野エリアからこうべ小学校に通っていて、公設児童館が遠い子どもが利用している。

放課後は子どもたちの時間、ということテーマに子どもたちがそれぞれやりたいことに取り組める環境を整えながら、一人一人の様子を見守るために少人数、多スタッフという状態を目指して運営をしている。

【活動頻度、規模】

学校放課後は 17 時半までが通常預かり、延長保育は 19 時半まで実施している。

また、学校休校日は土曜日なども含め、朝 7 時半から 9 時までが早朝保育、9 時から 12 時までが午前保育、12 時から 17 時半までが通常保育という形で運営をしている。利用する子どもの数は登録 30 名、常時利用が 20 名程度だった。

【成果】

新拠点に移転したことで、子どもたちが自由に空間を走り回れる環境になり、子どもたちが楽しそうに過ごしているとともに、スタッフとしても保育時の負担が下がって、より子どもたちと関われるようになった。

また、ボルダリングや音楽教室、家庭菜園など日常の中で様々な活動に取り組める環境になり、子どもたちから「今日こうやって過ごしたい」という声があがりやすくなった。

◆ 若者支援事業

【概要】

主に大学生を対象に、自分のやりたいことを見つけるための地域活動との関わり方を講義、もしくは実践の場で感じてもらうための事業。

【活動頻度、規模】

甲南女子大学にて 30 名程度に対して 1 回の講義を実施
神戸大学にて 20 名程度に対して 1 回の講義を実施

【成果】

神戸大学からは大学生が実際にまなびとの活動にも参加し、継続して活動してくれる人もでてきた。

◆ ツナガリ Music Lab.

【概要】

障がいを持つ子どもでも通うことのできる音楽教室のプログラム。株式会社人と音色が展開する音楽教室のフランチャイズ 1 号として 2021 年度から北野にて活動を開始。単にピアノが弾けるようになるだけではなく、子ども一人一人の発達段階に応じたプログラムを提供し、子ども本人やその親御さんも達成感、成長感を感じながら音楽と触れ合うことができるプログラム。

【活動頻度、規模】

神戸北野教室では毎週土曜日に 1 人の小学生を受け入れている。
また、講師スタッフを他の夙川、垂水の教室にも派遣し、そちらでも活動を行っている。

【成果】

神戸北野教室に通っている子どもは人と関わるのが好きで、親御さんも子どもに沢山の人の人と関わってほしいという思いで場所を探されていたこともあり、音楽教室の活動はもちろん、まどぬでのボルダリングやだんらんの外国人、また学生スタッフとの関わりなども楽しみにして教室に通ってくださっている。

◆ こどもべやオンライン

【概要】

コロナ禍で始まったオンラインでの子どもの学習サポート。
2021 年度は多子世帯向け、不登校の子ども向け、海外在住で日本にルーツを持つ子ども向けと、対象を 3 つに分けて事業を実施した。

【活動頻度、規模】

週 1 回子どもが希望する時間にオンラインにて宿題などをサポート。
多子世帯が 1 家庭、不登校の子どもが 1 家庭、海外在住のご家庭が 2 家庭利用があった。

【成果】

毎週決まった時間に人と関わりながら学習できることで、学習習慣が身に付いた。
また、場所を問わず活動ができるので、海外在住、また国内の地方在住のボランティアスタッフが関わってくださり、一年を通じて安定して活動を届けることができた。

(2) 在住外国人の社会参画促進事業

◆ 日本語教室だんらん事業

【概要】

日本在住の外国人に向けた日本語教室事業。オンラインとオフラインで実施をしている。外国人が、日本語を勉強するうえで、実際に日本語を使って日本人と話せる場がないということに課題を感じてスタートさせた事業。

【活動頻度、規模】

オフラインは毎週月水の 19 時～20 時半で活動。

オンラインは毎週月水の 19 時～20 時半、火木の 13 時半～15 時、土の 10 時～11 時半で活動している。

それぞれの教室に 5～15 名程度の参加がある。

【成果】

コロナ禍でオンラインの活動をスタートさせ、2021 年度も継続して活動をする事ができた。

だんらんに参加する外国人の求めている「相談相手」という役割のイメージを現場のスタッフが少しずつつかんできているので、日本語教室の活動に限らず、教室でできたつながりをどのようにして発展させていくかという取り組みが出てくるようになった。(オンラインイベントの日本人と外国人の共同企画や、オフラインでの学童保育との連携イベントの開催など)

(3) 多文化共生理解促進事業

◆ 居住支援事業

【概要】

神戸市中央区を中心にして、住む場所に困る、あるいは居住中、退去時にトラブルを抱える外国人を支援するための活動。

【活動頻度、規模】

随時活動は行っている。家探しに同行する活動以外にも、居住中の外国人へのヒアリング活動などを行っている。

【成果】

外国人が日本で一人暮らしするときどのようなことに困るのか、ということが分かってきた。(ゴミの出し方が分からない、結露がでる、虫が出る、部屋を汚してしまったがどうしたらいいか、等)

(4) 地域コミュニティづくり支援事業

◆ CAFE&BAR まどみ事業

【概要】

新拠点に移転して開始したコミュニティカフェ事業。

まなびとに関わる人たちの交流の場、また地域の方との接点を持つために開始した事業。

【活動頻度、規模】

現在水曜定休で、それ以外は 11 時半～16 時でランチ営業、金土日祝祝前日は 19 時～24 時でディナー営業を行っている。

【成果】

地域の方がまどみを通じて学童の存在を知ってくださったり、日本語教室に興味を持ってくださったりという広がりができた。

また、子育てについての悩みを気軽に相談できるキキミミ BAR など、まどみのスペースを有効利用した場作りなどにも挑戦することが出来た。

◆ ちいき食堂事業

【概要】

神戸市の「こどもの居場所づくり事業」から補助金を受けながらの活動。食事提供が条件となっている。まなびとでは食を通じた居場所作りの事業として活動をしている。

【活動頻度、規模】

毎週火木の 19 時～21 時で活動。（調理活動は 17 時ごろからスタート）
各回子どもが 3～8 人ほど参加している。

【成果】

子どもたちが毎週参加してくれており、ここでご飯を食べることが生活の一部になっている様子を感じ取れる。

(5) 調査研究事業

本年度は実施なし

(2) その他の事業

本年度は実施なし